

## ブラジル:対照的な石油・ガス関連政策を打ち出す大統領候補

### ～今後の政策変更の可能性から、プレソルト入札に IOC が積極的に参加～

(Platts Oilgram News, International Oil Daily, Business News Americas 他)

1. ブラジル大統領選挙の投票、開票が2018年10月7日に行われ、社会自由党のJair Bolsonaro氏が46.03%、労働者党のFernando Haddad氏が29.28%の票を獲得、28日に両者による決選投票が行われることになった。Bolsonaro氏が過半数に近い票を得たこと等から、決戦投票ではBolsonaro氏が優勢との見方が強くなっている。Bolsonaro氏は、国内調達比率緩和、非在来型資源の探鉱にインセンティブ付与、環境規制緩和、環境ライセンス付与の迅速化等を図るとしている。一方、Haddad氏はPetrobras強化、Petrobrasの資産売却中断、ブラジル国民の利益となるようにプレソルトを取り戻すこと等を提案している。
2. ブラジル国家石油庁は、9月28日、Santos BasinのSaturno 鉱区、Tita 鉱区、Pau-Brazil 鉱区、Campos BasinのSudoeste de Tartaruga Verde 鉱区を対象に、第5次PS入札ラウンドの入札を実施、以前の入札では札が入らなかった鉱区を含め全鉱区が落札された。サインボーナスは合計で68.2億リアル(17億ドル)となった。メジャーをはじめとする国際石油企業(IOC)がこの入札に競って札を入れた背景には、大統領選挙の結果次第では、これ以降当面プレソルトの鉱区が公開されなくなる可能性があると考えられていたことや、これまでブラジルでは石油・ガス関連の資産が国有化されたり、既存の探鉱・開発契約が破棄されたりしたことがないことが考慮されたものと思料される。
3. 陸上とCampos Basinからの原油生産量の落ち込みが著しいこと、新規FPSOの生産開始の遅れ、生産中油田のメンテナンスによる生産停止期間が予定よりも長びく等の理由で、2018年上半期のブラジルの石油生産量は、2017年上半期の260.7万b/dから258.9万b/dに1.2%減少した。大統領選挙を有利に進めているBolsonaro氏が大統領に就任することになれば、探鉱・開発は活発となることが期待されるが、もしもHaddad氏が決選投票で逆転勝利することになれば、投資環境が変化し、今後の生産量に影響を与える可能性もあると思われ、状況を注視していく必要がある。

#### 1. Bolsonaro、Haddad 大統領候補の石油・ガス関連政策

Michel Temer 大統領の任期満了に伴うブラジル大統領選挙の投票、開票が2018年10月7日に行われた。高等選挙裁判所の発表によると、候補者13人のうち、社会自由党(PSL)に属する極右のJair Bolsonaro氏が46.03%、左派、労働者党(PT)のFernando Haddad氏が29.28%、中道左派のCiro

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

Gomes氏が12.47%の票を獲得した。Temer大統領が所属するブラジル民主運動党（PMDB）から出馬したMeirelles氏の得票率は1.20%となった。当選に必要な有効票の過半数を獲得した候補者がなかったため、28日に上位2者のBolsonaro氏とHaddad氏による決選投票が行われることになった。

世論調査の支持率でトップを独走していたLuis Inacio Lula da Silva元大統領が、有罪判決を受けたことで出馬が不可能となり、9月にその後継者に指名されたHaddad氏は急速に支持率を伸ばしていたが、汚職撲滅や治安改善を訴えたBolsonaro氏が、長く政権を担当してきた左派に不満を持つ層からの支持を集め、7日の投票で勝利したと伝えられている。この投票でBolsonaro氏が過半数に近い票を得たことや、同時に実施された連邦議会選挙でもPSLが躍進（下院（定数513）での議席数は選挙前の8議席から52議席に増加、これまで議席がなかった上院（定数81）でも4議席を獲得<sup>1)</sup>したことから、3位以下の候補者の支持者がどちらの候補を支持するかによるところはあるものの、決選投票ではBolsonaro氏が優勢との見方が強くなっている。

Bolsonaro氏は、1955年São Paulo州生まれの63歳、Agulhas Negras Military Academy出身の元軍人で、1991年から下院議員を務めている。同氏は、市場経済推進、省庁の統廃合、国営企業の廃止や民営化、法人税引き下げ、犯罪の取り締まり強化、警察の増強等を図るとしている。石油・ガス関連では、国内調達比率をさらに緩和、非在来型資源の探鉱にインセンティブを設けるとしている。そして、Petrobrasの精製部門を部分売却することにより同部門に競合関係を取り入れるとしている。さらに、環境規制を緩和し、環境ライセンス付与の迅速化を図るとしている。同氏は、プレソルトエリア内の新規鉱区でオペレーターを務め権益の最低30%を保有するPetrobrasの義務を免除したプレソルト開発法改正にあたっては、これを支持するとの立場をとっていた。なお、同氏は、過激な発言で「ブラジルのDonald Trump」とも呼ばれており、反民主主義的な発言や女性や少数派に対する差別的な発言から不支持率も高いという。

一方、Haddad氏は1963年São Paulo州生まれの55歳、São Paulo大学で法律、経済、哲学を学んだ。2005～2012年に教育相を、2013～2017年にはSão Paulo市長を務めた。Lula元大統領から後継者に指名されたPTの候補者であることから、同氏の石油・ガスに関する政策はLula元大統領のとなっていたそれに極めて近いものとなっている。同氏は、Petrobrasを強化し、石油・ガス関連の全ての分野にPetrobrasを参加させ、国家開発の一翼を担わせるとしている。また、Petrobrasが実施している資産売却についても、まだ売却に至っていないものについては中断するとしている。プレソルトエリアの鉱区については、すでに締結されたPS契約は維持し、引き続きIOCによる投資の機会を設けるとしているが、外国企業ではなくブラジル国民の利益となるようにプレソルトを取り戻すことを提案している。なお、所属政党であるPTは既存の契約は重視するが、新規の契約については国内調達比率を引き上げる可能

---

<sup>1</sup> AFPBB 2018/10/8

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

性があるとしている。

両候補の掲げている石油・ガス関連政策は、このように対照的なもので、どちらが大統領に選出されるかにより、今後の石油・ガスをめぐる環境は大きく変わってくると考えられる。

## 2.第5次PS入札ラウンドの結果

ブラジル国家石油庁 (Agencia Nacional do Petroleo, Gas Natural e Biocombustiveis:ANP)は、2018年9月28日、Santos Basin のSaturno 鉱区、Tita 鉱区、Pau-Brazil 鉱区、Campos Basin のSudoeste de Tartaruga Verde 鉱区を対象に、第5次 Production Sharing (PS) 入札ラウンドの入札を実施した。

BP、Chevron、CNOOC、CNODC (CNPC)、Ecopetrol、ExxonMobil、Equinor、DEA、Qatar Petroleum International (QPI)、Royal Dutch Shell、Total、Petrobras の12社がPQを取得、このうちEquinor、DEAを除く10社がコンソーシアムを組み、4鉱区全てに札を入れた。サインボーナスはあらかじめ鉱区毎に金額が定められており、合計で68.2億レアル (17億ドル)となった。

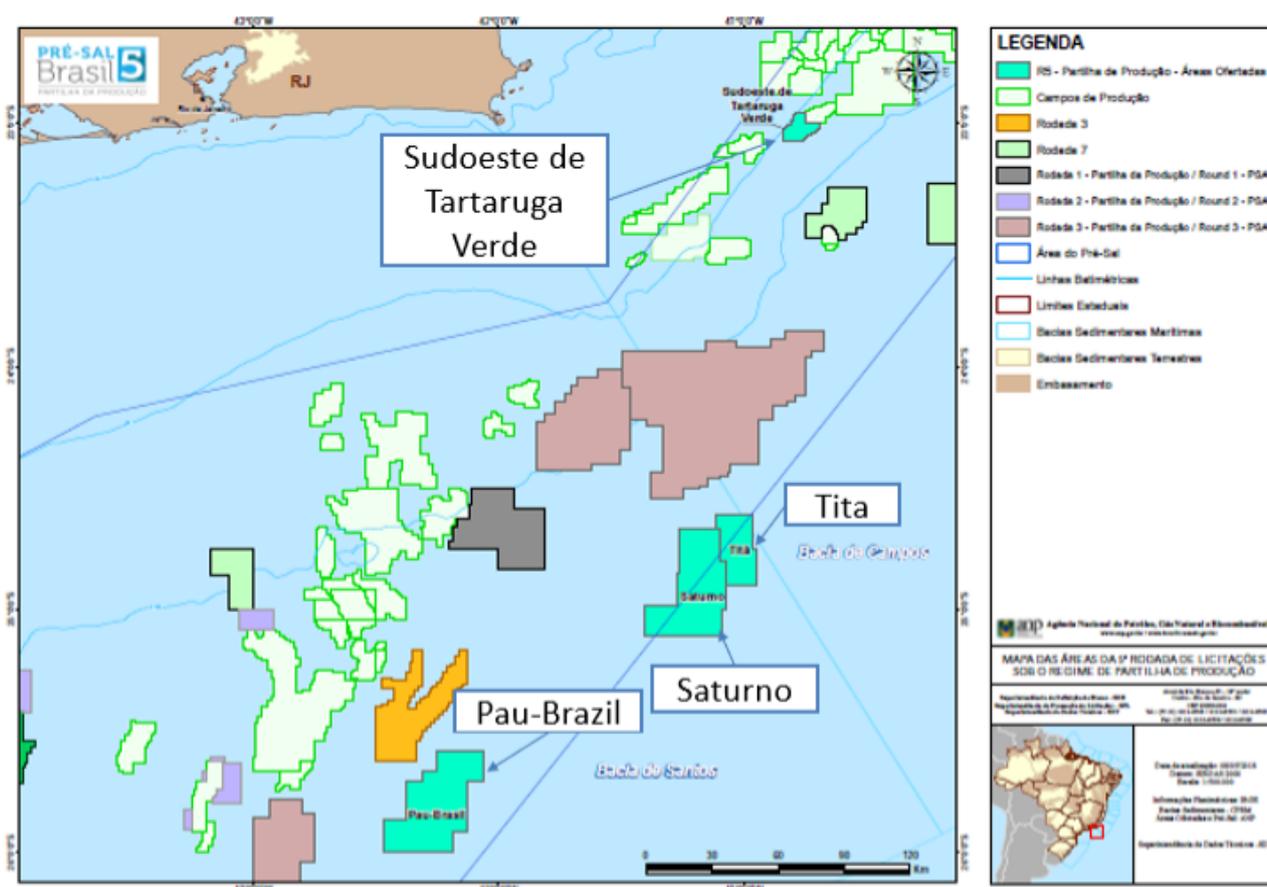


図1.第5次PS入札ラウンド対象鉱区 (出所:ANP website)

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

表 1.第 5 次 PS 入札ラウンド結果 (サインボーナスの単位:百万リアル)

鉱区	サイン ボーナス	政府引取利益原油 (最低比率)	落札した企業、コンソーシアム(権益保有比 率)*オペレーター
Saturno	3,125	70.20%(17.54%)	Shell(50%)*、Chevron(50%)
Tita	3,125	23.49%(9.53%)	ExxonMobil(64%)*、QPI(36%)
Pau Brazil	500	63.79%(24.82%)	BP(50%)*、CNOOC(30%)、Ecopetrol(20%)
Sudoeste de Tartaruga Verde	70	10.01%(10.01%)	Petrobras(100%)*

(各種資料を基に作成)

鉱区別に見てみると、Saturno 鉱区は、Shell と Chevron からなるコンソーシアムが落札した。両社は、ブラジル国内外でパートナーを組んだ経験があり、速やかに同鉱区の探鉱・開発を進めるとしている。第 15 次ライセンスラウンドで Saturno 鉱区の東部に隣接する S-M-536 鉱区と S-M-647 鉱区を落札した ExxonMobil/QPI のコンソーシアムも Saturno 鉱区に札を入れたが、Shell/Chevron のコンソーシアムに、落札企業を決定する政府引取利益原油の割合で約 30%引き離され、落札できなかった。ANP は Saturno 鉱区の原始埋蔵量を 83 億 bbl と推定している。

ExxonMobil/QPI のコンソーシアムは、Saturno 鉱区は落札できなかったが、Shell/Ecopetrol のコンソーシアムを破り、Saturno 鉱区の北東部に隣接する Tita 鉱区を落札した。これにより、ExxonMobil がブラジル国内に権益を保有する鉱区の数に 26 となった。ANP によると、Tita 鉱区の原始埋蔵量は 39 億 bbl とされている。

Pau-Brazil 鉱区は BP、Ecopetrol、CNOOC からなるコンソーシアムが、Petrobras/CNODC/Total のコンソーシアムを破って、落札した。同鉱区は 2017 年 10 月実施の第 3 次 PS 入札ラウンドで公開されたものの、札が入らなかった鉱区である。その際には、近くの Jupiter ガス田で生産されるガスが二酸化炭素を多く含むことから、敬遠されたのではないかと見られていた。BP は二酸化炭素が多く含まれることは問題ではあるが、構造の大きさを重視して高評価をつけたとされる。BP がブラジルに権益を保有する鉱区数は、Pau-Brazil 鉱区で 25 となるが、プレソルトで BP がオペレーターを務めるのは同鉱区が初めてとなる。ANP は Pau-Brazil 鉱区の原始埋蔵量を 39 億 bbl としている。

Sudoeste de Tartaruga Verde 鉱区は Petrobras が単独で落札した。他企業の応札はなかった。プレソルト開発法の改正により、Petrobras はプレソルトエリア内の新規鉱区でオペレーターを務めたり、権益の最低 30%を保有する必要がなくなり、探鉱・開発に参加するか否かを事前に選択できるようになった。Petrobras は、今回の入札では、Sudoeste de Tartaruga Verde 鉱区でオペレーターを務めることを事前に表明、その他の鉱区については札を入れるとしても、他企業と同じ立場で参加する意向を示していた。Sudoeste de Tartaruga Verde 鉱区は、Petrobras が権益 100%を保有し、6 月に生産を開始した Tartaruga Verde 鉱区の南西に位置しており、同鉱区と統合開発を行う。Sudoeste de Tartaruga Verde 鉱区は、第 3

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

次 PS 入札ラウンドと同日に実施された第 2 次 PS 入札ラウンドで公開されたものの、札が入らなかった鉱区である。Petrobras は第 2 次 PS 入札ラウンドでは入札を見送ったものの、第 2 次 PS 入札ラウンドで公開された時よりも面積が広げられたこと、サインボーナスが 1 億リアルから 7,000 万リアル(1,780 万ドル)に減額されたこと、政府引取利益原油の最低比率が 12.98%から 10.01%に引き下げられたことから、今回は応札に踏み切ったものとみられている。なお、ANP は、Sudoeste de Tartaruga Verde 鉱区の原始埋蔵量は 12.9 億 bbl、生産される原油の API 比重は 27 度と発表している。

今回の第 5 次 PS 入札ラウンドにメジャーをはじめとする主要な IOC が積極的に参入した背景には、大統領選挙の結果に対する不安感とともにブラジルに対する一定の信頼感もあったと考えられる。Haddad 氏や Gomes 氏等左派の大統領候補は、Temer 大統領が進めてきたプレソルト開発法の改正や国内調達比率の緩和といった改革を逆行させる方針だった。したがって、大統領選挙の結果によっては、当面プレソルトの鉱区が公開されなくなる可能性があるとの見方がなされていた。一方で、これまでブラジルでは石油・ガス関連の資産が国有化されたり、既存の探鉱・開発契約が破棄されたりした事例は一切ない。Lula 元大統領や Rousseff 前大統領の PT 政権下でも、新たに法律を制定し、新規の契約についてその内容を変更することはあっても、既存の契約は尊重されてきた。このような状況から、多くの石油企業は、今回の入札はプレソルトの鉱区を取得する貴重な機会であり、ここで鉱区を落札し、契約を締結すれば、その契約は重んじられると考えたと推測される。

## 終わりに

ANP によると、2018 年上半期のブラジルの石油生産量は、2017 年上半期の 260.7 万 b/d から 258.9 万 b/d に 1.2%減少した。陸上と Campos Basin ポストソルトの生産量の落ち込みが著しいこと、新規 FPSO の生産開始の遅れ、生産中油田のメンテナンスによる生産停止期間が予定よりも長いことが原因と考えられる。IEA は当初、ブラジルの石油生産量は 2018 年に 26 万 b/d 増加すると見込んでいたが、ブラジルの生産量の伸び悩みを受け、9 月 13 日発表のレポートではブラジルの 2018 年の石油生産量の伸びを 3 万 b/d に修正した。IEA は 遅れているプロジェクトの生産開始により 2019 年については生産量が 35 万 b/d 伸びるとしている。

大方の見通しの通り、Bolsonaro 氏が大統領に就任することになれば、ブラジルの探鉱・開発は引き続き活発に行われ、生産量の増減に関する懸念は杞憂に終わることになると思われるが、Haddad 氏が決選投票で勝利することになれば、投資環境が変化し、今後の生産量の伸びに影響を与えることもあると考えられ、状況を注視していく必要がある。

以上

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。